

ロボテック戦略月次レター（2021年12月の振り返り）

インフレ圧力が自動化を促進

労働力不足や賃金上昇圧力、サプライチェーンの混乱も自動化導入の機会に

12月の世界株式市場は上昇し、年間を通じても大幅な上昇を記録して1年を終えました。

当月のロボテック戦略は、12月は市場全体とほぼ同等のパフォーマンスとなりました。米国や日本をはじめ保有銘柄の株価が全般的に上昇したことがプラス寄与となりました。

年末にかけて企業の業績発表やその他の

ニュースは多くありませんでしたが、1月後半には多くの企業が10-12月期業績や2022年の見通しについて発表する予定で、個別企業および業界の今後の動向がより明確になるとみられます。

2022年も続くインフレ圧力やサプライチェーンの混乱

2022年が明けても、インフレ圧力やサプライチェーンの混乱は引き続き企業の経営に影響を与えており、一部の地域では労働力不足が賃金上昇圧力となっています。米国の求人労働移動調査(JOLTS)によると、



労働力不足が賃金上昇を招きインフレ圧力となっています。特に倉庫業界は大規模な労働力不足問題を抱え、一部で急速な賃金上昇を招いており、自動化需要が高まっています。

コロナ前の月間求人件数が平均600~700万件だったのに対し、現在は約1,100万件となっています。この高水準の求人件数は、企業が働き手を探してもすぐには見つからない状況を示しています。多くの業種、中でも製造業においては、労働力不足を解決する一手として自動化を導入する機会を提供しており、この問題が続く限り自動化の需要を高める原動力となると見えています。

倉庫関連で顕著な賃金上昇

目下のところ、インフレがどこまで上昇するのか、その影響はいつまで続くのかが議論的となっています。1月上旬には、米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長がインフレ高止まりへの懸念を示し、



2022年の見通しを語る

アクサIMの2022年のマクロ経済・投資戦略に関する見通しや、今後注目される主要テーマに関して当社の専門家が解説しています。[こちら](#)からぜひご覧ください。

年内利上げの可能性に言及しました。ただ、高インフレの影響を予測することは、オミクロン株の出現で新型コロナウイルスの感染状況による不透明感もあることから、難しいと言えます。なお、一部の地域で見られる急速な賃金上昇は特に倉庫関連の従業員において顕著で注目に値します。倉庫業界は現在のところ、大規模な労働力不足問題を抱えている分野の一つです。1月上旬に発表された12月の米雇用統計によると、全般的に労働需給の逼迫が依然目立っており、特に、就業者数の増加幅は運送・倉庫業で伸び悩んでいます。

Eコマースが自動化需要を押し上げ

Eコマースは、長期的かつ構造的な成長ポテンシャルに加え、コロナ禍における需要の増大も相まって、倉庫や物流における自動化技術の需要を大幅に増大させると考えられます。当戦略では設定来、倉庫・物流分野は重要な投資対象の一つであり、マテリアル・ハンドリングのKIONグループやダイフク、ビジョンシステムを提供するコグネックスやキーエンス、オンラインスーパーの自動化ソリューションを手掛けるオカド・グループなどを組み入れてきました。これらの銘柄に加え、昨年組み入れを開始した物流サービス・プロバイダーのGXOロジスティクスや倉庫ロボットシステムのオートストアなどの銘柄も恩恵を受けると見込まれます。

自動化できる分野は一層拡大し、経済効果も増大

労働力不足や賃金上昇圧力は、倉庫以外の分野にも影響を与えています。必要な労働力がすぐに見つからなかったり、賃金が上昇しているときは、（人を雇うことに比べて）投資回収期間が短く、リスクも

低い自動化への投資はより魅力的となります。テクノロジーの進化によって自動化できる分野は一層拡大しており、また自動化導入の経済効果も増していることから、自動化機器への需要は今後長期にわたって継続すると見えています。

当月は倉庫自動化関連の組入銘柄を中心に買い増しを行いました。主な銘柄としては、自動倉庫のスペシャリストのGXOロジスティクス、ビジョンシステムを提供するコグネックス、マテリアルハンドリングを得意とするダイフク、そして大規模物流センターを運営するアマゾン・ドット・コムなどが挙げられます。また、アライン・テクノロジー、グローバス・メディカル、アクソニクスなどのヘルスケア関連銘柄の買い増しも行いました。前月に組入を開始したデジタル・プリンター・メーカーのコーニット・デジタルについても積み増しを行い組入比率を引き上げました。

EV関連の設備投資も拡大

なお、当戦略では電気自動車（EV）関連の設備投資動向にも注目しています。特に欧州および米国でEVの設備投資が拡大しています。12月には、独フォルクスワーゲンが2022～2026年の投資計画として、EVなどの次世代技術開発やEV工場新設に5年間で890億ユーロ（約12兆円）を投じる方針を発表しました。また、トヨタ自動車も同月中旬、EVの世界販売台数を2030年に350万台とする目標を発表し、EVへの本格参入を表明しました。同社は車載電池などを含めEVに4兆円規模の投資を計画しています。EV関連で自動化などの設備投資の加速が見込まれます。

ポートフォリオの動向

当月はヘルスケアや資本財セクターの銘柄が特に好調でした。手術支援ロボットの主要企業であるインテュイティブ・サージカル、脊椎手術支援ロボットのグローバス・メディカルなどがプラス寄与となりました。日本の産業用ロボット・メーカーのファナックや安川電機も、旺盛な設備投資が2022年の産業用ロボットの需要を支えるとの期待からプラス寄与となりました。

一方、半導体関連銘柄はまちまちのパフォーマンスとなりました。アンバレラ、テラダイン、オン・セミコンダクターなどはプラス寄与となりました。オン・セミコンダクターは自動車や産業セクターからの強い需要が業績の支えとなっている他、同業他社と同様、現在の半導体不足問題を反映して顧客企業と長期のサプライ契約を結んでいることも追い風となっています。高性能コンピューターや人工知能(AI)向け半導体の比率の高いアドバンスト・マイクロ・デバイセズ(AMD) およびエヌビディアは、過去1年の大幅な上昇を受けて利益確定の売りから株価が下落しマイナス寄与となりました。

関連リンク

[倉庫自動化関連企業が好調](#)

[半導体企業の好業績が牽引](#)

[ロボット関連企業の業績注視](#)

[産業用ロボット受注は堅調](#)

[日本の先行指標に明るさ](#)

[米ヘルスケア銘柄が堅調: ワクチン接種の更なる拡大で、手術支援ロボット市場は年後半にも正常時の水準に回復へ](#)

[日本の自動化銘柄が好調: ロボット受注など日本の産業活動の先行指標、世界経済回復の恩恵を受けて堅調に推移](#)

[ヘルスケアセクターが堅調: 新型コロナワクチン普及による経済再開に伴い、手術支援ロボットの需要拡大へ](#)

[半導体不足の影響は?: 影響は一時的、半導体企業やロボット関連業界には中期的に恩恵に](#)

[アクサIMのロボテック戦略について](#)

[ポートフォリオ・マネージャーが語るロボテック戦略への新型コロナウイルスの影響](#)

ディスクレーマー

アクサIMについて

アクサ・インベストメント・マネージャーズ（アクサIM）は責任ある資産運用会社であり、長期的なアクティブ運用を行うことで、お客様、従業員、そして世界の繁栄を支援しています。当社の確信度の高い運用アプローチにより、代替資産クラスおよび伝統的資産クラス全般で最も良好な投資機会と考えられるものを追求しています。2021年9月末時点で約8,790億ユーロの運用資産残高を有しています。

アクサIMは、グリーン、社会、サステナブル市場における先進的な投資家であり、2021年9月時点で5,770億ユーロにおよぶESG（環境、社会、ガバナンス）統合済みのサステナブルおよびインパクト資産を運用しています。当社は、2050年までに、

全運用資産における温室効果ガス排出のネットゼロ達成をコミットしており、株式銘柄選択から企業行動や文化に至る当社の事業にESG原則が組み込まれています。当社の目標は、社会と環境に有意義な変化をもたらしつつ、お客様に真に価値のある責任投資ソリューションをご提供することです。

2021年6月末時点で、アクサIMは20カ国26拠点において2,488名余の従業員を擁し、グローバルな事業を展開しています。アクサIMは、世界最大級の保険および資産運用グループであるアクサ・グループの一員です。

投資リスク及び費用について

当社が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行いますが、当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。

また、当社の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はおお客様の負担となります。

【ご留意事項】

当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズの情報提供に基づき、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳・作成した資料です。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に記載された運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の情報であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

当資料を事前の了承なく複製または配布等を行わないようにお願いします。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号: 関東財務局長（金商）第16号

加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、日本証券業協会

Ref-23708